

## 第8回統合イノベーション戦略推進会議議事録

1. 日時 令和3年1月19日(火) 9:35～9:55

2. 場所 総理官邸2階大ホール

### 3. 出席者

|      |       |                                    |
|------|-------|------------------------------------|
| 議長   | 加藤 勝信 | 内閣官房長官                             |
| 議長代理 | 井上 信治 | 内閣府特命担当大臣(科学技術政策)                  |
| 副議長  | 平井 卓也 | 情報通信技術(IT)政策担当大臣                   |
| 同    | 小此木八郎 | 内閣府特命担当大臣(海洋政策)                    |
| 構成員  | 武田 良太 | 総務大臣                               |
| 同    | 上川 陽子 | 法務大臣                               |
| 同    | 茂木 敏充 | 外務大臣<br>(鷲尾英一郎 外務大臣政務官代理出席)        |
| 同    | 麻生 太郎 | 財務大臣                               |
| 同    | 萩生田光一 | 文部科学大臣                             |
| 同    | 田村 憲久 | 厚生労働大臣                             |
| 同    | 野上浩太郎 | 農林水産大臣                             |
| 同    | 梶山 弘志 | 経済産業大臣                             |
| 同    | 赤羽 一嘉 | 国土交通大臣                             |
| 同    | 小泉進次郎 | 環境大臣                               |
| 同    | 岸 信夫  | 防衛大臣                               |
| 同    | 平沢 勝栄 | 復興大臣                               |
| 同    | 河野 太郎 | 内閣府特命担当大臣(規制改革)                    |
| 同    | 坂本 哲志 | 内閣府特命担当大臣(地方創生)                    |
| 同    | 西村 康稔 | 経済再生担当大臣(赤澤亮正 内閣府副大臣代理出席)          |
| 同    | 橋本 聖子 | 東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会<br>担当大臣 |
|      | 坂井 学  | 内閣官房副長官                            |
|      | 和泉 洋人 | 内閣総理大臣補佐官                          |

### 4. 議題

- (1) 第6期科学技術・イノベーション基本計画(答申素案)について
- (2) 大学ファンドの創設について
- (3) 標準の戦略的な活用に向けた取組について
- (4) 主要分野の戦略の状況について
  - マテリアル革新力強化戦略(中間論点整理)について
  - バイオ戦略2020(市場領域施策確定版)について
  - 量子技術イノベーションの推進について
  - 革新的環境イノベーション戦略の更なる加速について

### 5. 資料一覧

- 資料1-1 第6期科学技術・イノベーション基本計画(答申素案)(概要)
- 資料1-2 第6期科学技術・イノベーション基本計画(答申素案)
- 資料2 大学ファンドの創設について

- 資料3 標準の戦略的な活用に向けた取組について
- 資料4 - 1 マテリアル革新力強化戦略（中間論点整理）（概要）
- 資料4 - 2 マテリアル革新力強化戦略（中間論点整理）
- 資料4 - 3 バイオ戦略2020（市場領域施策確定版）（概要）
- 資料4 - 4 バイオ戦略2020（市場領域施策確定版）
- 資料4 - 5 量子技術イノベーションの推進について
- 資料4 - 6 2050年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略
- 資料5 みどりの食料システム戦略 策定に当たっての考え方（概要）

## 6. 議事

### 【井上科学技術政策担当大臣】

ただいまより第8回統合イノベーション戦略推進会議を開会いたします。  
それでは議事に入ります。

一つ目の議題は「第6期科学技術・イノベーション基本計画（答申素案）」についてです。  
資料1-1に沿って説明をいたします。

2021年度からの5か年計画である次期基本計画では、我が国として「持続可能性と強靭性を備え、国民の安全・安心を確保するとともに、一人ひとりが多様な幸せを実現できる社会」を目指すべく、デジタル技術の活用による社会変革、研究力の強化、新たな社会を担う人材の育成に取り組むとともに、今後5年間で政府の研究開発投資を30兆円、官民合わせて120兆円を目標とします。

今後、パブリックコメントに付した上で、3月の閣議決定を予定しております。

二つ目の議題は、「大学ファンドの創設について」です。資料2に沿って説明いたします。

1ページを御覧ください。博士課程学生の減少や若手研究者のポストの不安定化など厳しい現状を打破し、世界トップの研究大学の実現を図るため、大学ファンドを創設いたします。

2ページを御覧ください。大学ファンドの運用については、文部科学省と緊密に連携しつつ、来年度の運用開始を目指し、JST（国立研究開発法人科学技術振興機構）の体制整備を進めます。そのため、CSTI（総合科学技術・イノベーション会議）の下に専門調査会を設置し、運用の基本的考え方や大学改革等について検討します。その際、国立大学法人の新たな法的枠組みの検討を文科省とともに進め、次期通常国会に関連法案の提出を目指します。

本議題に関し、萩生田文部科学大臣から、御発言をお願いいたします。

### 【萩生田文部科学大臣】

引き続き、資料2の3ページを御覧ください。

大学ファンドは早期に10兆円規模の元本形成を目指しますが、その運用について、具体的な考え方を御説明します。

資金運用が長期的な視点から安全かつ効率的に行われるよう、文部科学大臣が基本指針を定め、政府がしっかりと関与いたします。また、JSTに資金運用を担当する理事を新設するなど、ガバナンス体制を強化します。

これらの内容を盛り込んだ法案の概要が4ページです。昨日の臨時閣議で決定され、今後、国会で審議されることとなります。

なお、大学ファンドの創設に先駆ける形で、将来の我が国を牽引する貴重な人材である博士課程学生への生活費相当額の支援などを行うため、今後国会で審議される令和2年度第3次補正予算案に200億円を計上しております。これにより、政府の目標値である約1万5千人の支援が達成できます。

昨年末に私から博士を目指す学生の皆さんに対してメッセージを公表いたしました。イノ

バージョンの創出に向けて、博士が大きく活躍できる社会の実現に向けて最大限取り組んでまいります。

【井上科学技術政策担当大臣】

次に三つ目の議題は、「標準の戦略的な活用に向けた取組について」です。資料3に沿って説明いたします。

1ページを御覧ください。

Society 5.0、デジタル社会、カーボンニュートラルの実現など、イノベーションで社会課題の解決を図り、また、国際市場を確保するためには、「標準活用戦略」の取組強化が不可欠です。

2ページを御覧ください。

横断的課題に省庁連携で取り組むタスクフォースを設置し、具体的な重点分野ごとにチーム化して、重要施策に対し機動的に財源配分して加速化します。関係大臣には、各分野における「標準活用」に御協力をお願いいたします。

次に、四つ目の議題は、「主要分野の戦略の状況について」です。

まず、「マテリアル革新力強化戦略の中間論点整理」について、資料4-1に沿って説明いたします。

1ページを御覧ください。

我が国の科学技術・イノベーションを支える基盤技術である「マテリアル革新力」の強化に向けては、入口側の研究開発力の強化のみならず、出口側の社会実装の迅速化における課題も重視しています。基本方針として、産学官共創による迅速な社会実装、本質研究の追求とイノベーション基盤の強化、人材育成等の持続的発展性の確保の3点を掲げ、産学官関係者の共通ビジョンの下で、我が国の強みに立脚した政府戦略を年度内に策定すべく、目指してまいります。

次に、「バイオ戦略2020（市場領域施策確定版）」について、資料4-3に沿って説明をいたします。

1ページを御覧ください。

新型コロナウイルス感染症対応や、2050年カーボンニュートラルの実現に資するバイオエコノミーの拡大に向け、今般、バイオ戦略を取りまとめました。本戦略は、我が国の強みを生かし、市場拡大が期待される市場領域ごとに目標を設定し、バックキャストにより取組を策定したものです。2030年時点で総額92兆円の市場規模を目指しており、その実現に向け、バイオコミュニティの形成、データ連携の促進等を強力に進めてまいります。

次に、「量子技術イノベーション戦略の推進」について、資料4-5に沿って説明いたします。

昨年1月に取りまとめた量子戦略をより強力に推進するため、量子技術の社会実装に向けて多様な組織、機関等が参画する新たな協議会の活動を支援します。また、国内八つの拠点を中心に研究開発を本格化していきます。

続いて、「革新的環境イノベーション戦略」の更なる加速について、梶山経済産業大臣から御説明をお願いいたします。

【梶山経済産業大臣】

新型コロナウイルス感染症によって直面する難局に対応するとともに、地球温暖化をはじめとする社会課題を乗り越え、成長につなげていく最大のかぎはイノベーションです。

まず革新的環境イノベーション戦略の更なる加速について御説明いたします。資料4-6を御覧ください。

経済産業省において、関係省庁と連携し、2050年カーボンニュートラルに伴うグリーン

成長戦略を取りまとめました。温暖化への対応を成長の機会と捉え、経済と環境の好循環を作っていく産業政策、これがグリーン成長戦略です。

これまでも克服すべき技術面での課題については、革新的イノベーション戦略を策定し、検討を深めてきました。これらの革新的な技術の確立に加え、更なる課題は社会実装や量産投資によるコスト低減にあり、本戦略に基づき、予算、税制、金融、規制改革、標準化、国際連携を総動員し、民間企業が保有する現預金を積極的な投資に向かわせることが必要です。

特に、予算としてグリーンイノベーション基金を創設します。2兆円規模で10年間という長期にわたって企業経営者のコミットを求めつつ、支援をいたします。これを呼び水に、民間企業の研究開発、設備投資を15兆円誘発をいたします。

今回取りまとめた実行計画を着実に実施するとともに、更なる改訂に向け、官房長官の御指示を踏まえ、目標や対策の深掘りを検討し、今年夏に閣議決定予定の成長戦略に反映してまいりたいと考えております。

この革新的環境イノベーション戦略の更なる加速に加えて、半導体、マテリアル、バイオ、量子技術などについても、グローバル市場における経済安全保障に留意した上で国家戦略に基づき研究開発を進めます。

また、イノベーションを実現する中で、知財や標準化を活用して国際的なルール形成に戦略的、機動的に取り組んでまいります。

また、スタートアップを含めた企業のイノベーションを創出するエコシステムの形成や人材育成の推進を通じて、イノベーションを継続的に生み出し、社会課題の解決へとつなげていく仕組みをつくり上げていきます。

いずれにしても、経済産業省としては、今後取りまとめられる基本計画に基づき、関係省庁と緊密に連携して取り組んでまいります。

以上です。

【井上科学技術政策担当大臣】

それでは関係大臣から御発言を頂きたいと思えます。

まず武田総務大臣、お願いします。

【武田総務大臣】

本日議論された各テーマは、我が国の産業にとって重要なだけでなく、ポストコロナ時代を切りひらく上でも大変重要なものと考えております。

量子技術イノベーションとしては、NICTの研究成果を活用した民間企業による事業化も進んでおり、引き続き、世界最先端の研究開発や産学官連携による社会実装の取組を推進してまいります。

また、第6期科学技術・イノベーション基本計画が目指すSociety 5.0の実現に向け、その次世代インフラ基盤となるBeyond 5Gについて、研究開発基金を創設し、官民の英知を結集した研究開発を促進し、必要な要素技術をいち早く確立させてまいります。

併せて、標準の戦略的な活用を進めるため、産学官一体となって、Beyond 5Gに関わる知財の取得や、国際標準化に取り組む「Beyond 5G新経営戦略センター」を昨年12月18日に設立したところであります。これらを通じて、総務省としてもSociety 5.0の実現に向け、戦略的に取り組んでまいります。

以上です。

【井上科学技術政策担当大臣】

次に上川法務大臣、お願いします。

【上川法務大臣】

科学技術・イノベーションにおける覇権争いが激化する中で、顕在化する技術流出問題へも適切に対応することが重要であります。

公安調査庁では、経済安全保障の観点から、政府関係機関を始め、企業や大学などとも緊密に連携しつつ、技術流出対策等に資する情報収集、分析を更に強化してまいります。

以上です。

【井上科学技術政策担当大臣】

次に萩生田文部科学大臣、お願いします。

【萩生田文部科学大臣】

我が国にとって研究力の強化は喫緊の課題であり、次期基本計画の答申素案で取り上げられた、博士課程学生の処遇向上や若手研究者のポスト確保をはじめとする研究環境の再構築、研究のデジタルトランスフォーメーションの推進、知の循環の中核となる大学等の機能と経営力の強化、Society 5.0の実現に向けた教育・人材育成などを進めてまいります。

また、内閣府とともに10兆円規模を目指した大学ファンドの創設などの取組を着実に進めます。

さらに、戦略に基づくバイオ、量子技術の研究開発及び拠点形成の重点的な推進、マテリアル革新力強化戦略の策定及び戦略の重要論点であるデータ駆動型研究の推進、カーボンニュートラル達成に向け省エネを実現する半導体や蓄電池、原子力・核融合などの研究開発を関係府省庁と連携して取り組んでまいります。

【井上科学技術政策担当大臣】

次に田村厚生労働大臣、お願いします。

【田村厚生労働大臣】

第6期科学技術・イノベーション基本計画やバイオ戦略等の関連する戦略において、内閣府等の関係省庁や関係機関、さらには国際的な連携の下、全ゲノム解析や創薬開発等について、より一層の推進に努めてまいります。

【井上科学技術政策担当大臣】

次に野上農林水産大臣、お願いします。

【野上農林水産大臣】

農林水産省では、2050年におけるカーボンニュートラルの実現に向けて、食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現するため、「みどりの食料システム戦略」を策定することとしております。

昨年12月に本戦略の策定に当たっての考え方を公表いたしました。本日の会議資料として2枚配布しております。2050年までに目指す姿として、農林水産業のCO2ゼロエミッション化等を掲げており、革新的な技術・生産体系の開発、その後の社会実装を実現していきたいと考えております。

農林水産業は、森林及び木材、農地、海洋が吸収源となる重要な産業であり、カーボンニュートラルの実現に大きく貢献する潜在的な強みがあると考えております。

関係省庁と緊密に連携しながら、実効性のある取組を進めてまいります。

【井上科学技術政策担当大臣】

次に小泉環境大臣、お願いします。

【小泉環境大臣】

菅総理の2050年までのカーボンニュートラル宣言は、決して30年後の話ではありません。この5年、10年が勝負だという認識が不可欠です。

このためイノベーションの成果を活用して、足元からできることを直ちに実行することが重要であり、先月開催された国・地方脱炭素実現会議においても、今後5年間を集中期間として重点対策を全国で実施する考えを示しました。

環境省としても、科学技術・イノベーション基本計画などの推進に協力しつつ、脱炭素を実現した先行地域を5年以内に創出し、次々と脱炭素地域を生む、いわゆる脱炭素ドミノを起こしていきます。更に今後のイノベーションの成果も活用しながら、日本全体の脱炭素化を図ります。水素を活用した脱炭素社会の実現などイノベーションを促進し、その実装を推進する観点も含め、成長に資するカーボンプライシングの検討について梶山大臣と連携して取り組んでまいります。

以上です。

【井上科学技術政策担当大臣】

次に河野規制改革担当大臣、お願いします。

【河野規制改革担当大臣】

2050年カーボンニュートラルの実現に向けた環境エネルギー分野のイノベーションと併せ、規制改革に取り組んでいかなければなりません。

現在、再生可能エネルギー等に関する規制等の総点検タスクフォースを設け、再生可能エネルギーの主力電源化に向けて要望の強いテーマから順に規制の見直しを行っています。

また、研究力の強化に関しては、競争的研究費の各種手続の簡素化、及びルール統一が求められます。井上大臣と連携して、研究者が研究に集中できるような改革を進めていきます。イノベーションの促進は待ったなしです。求められる様々な規制改革に速やかに取り組んでまいります。

【井上科学技術政策担当大臣】

次に平井デジタル改革担当大臣、お願いいたします。

【平井デジタル改革担当大臣】

本年はデジタル改革が本格稼働する年です。まずIT基本法の抜本改正やデジタル庁設置を含めたデジタル改革関連法案を今国会に提出し、早期に成立できるよう準備を進めてまいります。

また、そのためのデータ戦略はデジタル改革の基盤であり、今年9月から始動するデジタル庁においても、業務の柱になると考えています。データやデジタル技術を活用して、国民に対する新たな価値を創造、提供し続けることが重要であり、これらの取組を通じ、誰一人取り残さないデジタル社会を目指して、デジタル改革を強力に推進してまいりたいと思います。

以上です。

【井上科学技術政策担当大臣】

ありがとうございました。

それでは、「第6期科学技術・イノベーション基本計画（答申素案）」及び「バイオ戦略2020（市場領域施策確定版）」につきまして、原案のとおり了承してよろしいでしょうか。

【麻生財務大臣】  
質問があります。

【井上科学技術政策担当大臣】  
麻生財務大臣。

【麻生財務大臣】  
この資料2、2ページ一番上、資金運用ワーキンググループ（仮称）、その次の3ページ、この運用は科学技術振興機構（JST）がやることになっています。財政融資4兆円、これは書いてあるのは分かりますけれども、誰がやるのでしょうか。

まさか文科省の役人がこの金を運用するというわけじゃないですよね。そこだけ教えてください。今決まっていらないなら、後でも結構です。

【井上科学技術政策担当大臣】  
ありがとうございました。  
これはJSTの中に体制を整備した上で、外部の運用機関に委託するということになります。

【麻生財務大臣】  
かつて、GPIFも百何十兆もの金を使って収益がマイナスになった年もありますから、忘れないでください。

【井上科学技術政策担当大臣】  
きっちり運用ができていくように、しっかり取り組んでまいりたいと思います。  
ありがとうございました。  
それでは原案のとおり了承してよろしいでしょうか。

（異議なし）

【井上科学技術政策担当大臣】  
了承を頂きました。  
本日御議論いただいた第6期科学技術・イノベーション基本計画につきましては、今後、与党との調整を経て、本年度内の総合科学技術・イノベーション会議答申及び閣議決定に向けて、所要の進めを進めてまいります。

それでは、最後に加藤官房長官より御挨拶を頂きたいと思います。プレスが入室しますので、お待ちください。

（プレス 入室）

【井上科学技術政策担当大臣】  
それでは、加藤官房長官、お願いいたします。

【加藤官房長官】  
本日は科学技術・イノベーション政策に関する議論を頂きました。  
感染症の拡大や、気候変動といった課題に直面する中、科学技術に対する国民の皆さんの期待は高まっております。政権の重要課題でありますデジタル化の推進やカーボンニュートラル

の実現をはじめとして、国民の期待に応え、社会変革につなげていく科学技術・イノベーション政策が求められております。

本日議論した本年4月からの5か年計画となる「第6期科学技術・イノベーション基本計画」の素案について、今年度末の閣議決定に向け、井上大臣が中心となって、引き続き策定作業を進めていただきたいと思います。

また、大学ファンドの検討に当たっては、本会議の下、大学ファンドタスクフォースを設置し、政府一丸となって取り組むとともに、井上大臣と萩生田大臣を中心に実効性のある運用の仕組みを構築し、我が国の世界トップクラスの研究大学に対し、力強い支援を進めてください。

標準を活用した取組については、デジタル社会、グリーン成長、Society 5.0の実現に向け、世界をリードするゲームチェンジを起こすべく、官民連携で強化してまいります。井上大臣を中心に関係大臣で連携し、取組分野の拡大や研究開発法人等による民間の標準戦略への支援実行を早急に具体化してください。

更に「革新的環境イノベーション戦略」を始め、四つの戦略の状況報告がありました。世界を凌駕する成果を打ち出せるよう、各大臣の連携の下、各戦略を迅速、確実に実行してください。

以上です。

【井上科学技術政策担当大臣】

ありがとうございました。

プレスの方は御退席ください。

(プレス 退室)

【井上科学技術政策担当大臣】

本日の議事は以上です。

本日の資料及び議事録は公表させていただきます。

以上で会議を終了いたします。ありがとうございました。